

4月7日投票  
知事選挙  
市長選挙

住吉市民病院跡地に

# 出産、子どもが入院できる ベッドを取り戻せるチャンス！

## 住吉市民病院廃止問題特集

選挙にいって  
暮らしを  
良くしたい！

### 住吉市民病院ってどんな病院だったの？

市民病院は気軽に安心してかかることのできる病院で、重症心身障がい児の短期入所の受け入れなど福祉的な役割も担っていました。また、家族の付き添いがなくても子どもの入院を受け入れるなど、一人親や共働きの家族にとって頼もしい病院でした。

また、未受診妊婦など社会的弱者にとってなくてはならない役割を果たしていました。

### どうして閉院したの？

もともと市民病院は現地で建て替え、120床の小児・周産期医療に特化した病院になるはずでした。しかし、2012年橋下市長（当時）の「二重行政のムダ」のひと声で、廃止・統合を発表。地域住民による「廃止反対」の署名が7万筆以上も寄せられたにも関わらず、跡地に民間病院を誘致することを条件に廃止が強行されました。その後、民間病院の誘致は4度失敗。昨年3月に市民病院は閉院となり、事実上の「医療空白」になっています。

### 市民病院跡地には新病院が設置される？

大阪市は、これまで「小児科で10床、産科で10床」という数字をあげ、跡地に整備する新病院にベッドを確保する方向性を示唆し、住民や医師会に説明してきました。しかし、今年1月に発表された新病院の計画には「産科も小児科もベッドはなし」…、ひどい！



### 松嶋三夫・住之江区医師会長のお話

住吉市民病院は、24万人の住之江・西成区で唯一入院可能な小児科・産科の専門病院として寄与してきました。統廃合後に起こった事件（府立急性期医療センターに間に合わなかった妊婦の車内出産）は、交通検証を怠った大阪市に責任があり、早急に解決しなければ、第2第3の事件が発生します。問題解決には、南海高野線より以西に、小児周産期の入院病床を確保する事が絶対必要で、大阪市は医療難民の発生防止の緊急措置を取らねばなりません。



カジノより地域医療を最優先に!  
大阪都構想は断念を



### どれだけ沢山の税金を使うの？

カジノのために莫大な税金を必要とする巨大開発が次々とすすめられています。住民投票で一度否決されている大阪都構想にも最大637億円のコストが……。税金の使い方を市民のくらし最優先に切り替えれば財源はあります。